



あさか環境市民会議

かんきょう

No.41

事務局 埼玉県朝霞市・市民環境部環境推進課内
 TEL. 048-463-1504 / FAX. 048-467-0770
 E-mail : kankyo_suisin@city.asaka.lg.jp
 ブログ: <https://22494592.at.webry.info/>

黒目川エコ探検—落合川の源流を訪ねて

9月22日に開催 小平源流と違う川の姿を観察



9月22日に行われた「黒目川エコ探検」の第3回目は、黒目川のもうひとつの源流である落合川を歩いてみようという企画です。前回(3月)は小平霊園付近の黒目川源流から東久留米駅近くまで下ってみました。今回は、そこからすぐ下流、落合川との合流点が出発点です。まだ暑い空気の残る日でしたが朝霞台駅に14名が参加、バスに乗って移動、神宝大橋という埼玉と東京の境になっている場所に到着しました。橋の上から上流を眺めると、右に黒目川本流、左側が落合川です。

落合川に沿って設けられている遊歩道には川側にフェンスがあり、護岸で守られた河川敷は一段低く、そう広くありませんが、豊富な水量とその中で揺れている水草が鮮やかです。岸辺の植物群やこの景観は散歩する人たちの楽しみになっていると思われます。河川改修を経た現在の落合川の姿です。

左右の景色を眺めながら進むと新落合橋付近で右岸側に立野川が流れ込んでいます。きれいに澄んだ水で、これも落合川の湧水群のひとつということ、2キロほどの長さがあるそうです。さらに歩き続けて西武線の陸橋を越えるあたりで、ここにもやはり右岸に流れ込む流れがあります。本流を離れて、この支流を遡ると、よく整

備された竹林に行き当たり、一帯は竹林公園という広場になっています。うす暗い竹林を降りた窪地に、湧水池があり、砂を巻き上げて湧き出ている場所も確認できます。藪蚊の巣窟みたいな場所でもあります(写真上)。

本流に戻り、またいくつかの橋を過ぎます。橋の名前は美鳥橋、老松橋、不動橋などユニークで、数も多く近接しています。川と生活の場が近いのではないのでしょうか。老松橋の先に、川岸の囲いがなく、自由に遊べる「いこいの水辺」という親水広場があり、この日も小魚やザリガニ取りなど川遊びをする親子の姿を目にすることができました。

多門寺という名利を過ぎ、毘沙門橋を越えると、落合川最大の湧水である南沢からの流れが合流しています。流れに沿って南沢へ向かうと氷川神社があります。この湧水自体がご神体になっているのでしょうか。一帯には、林の中をいくつかの流れが交差するように水路が流れていて、これはただの湧

鹿島灘の風力発電施設と銚子市内の見学会

日時 2020年1月8日(水) 午前8時から午後5時頃まで(往復貸し切りバス)

今回の見学会は茨城県神栖市の風力発電施設と千葉県銚子市を訪問します。午前中は鹿島灘の海岸に設置されたウインド・パワーかみす第1・第2洋上風力発電所(いわゆる風車です)で、実際に稼働している施設を見ながら説明を聞きます。この見学会は茨城県次世代エネルギーパークの協力により、午後には利根川を渡って千葉県銚子市に向かい、銚子電鉄駅、卸売市場、犬吠先灯台、戸川漁港など(予定)を見学します。2カ所とも、風が強く、かなりの寒さも予想されますので防寒対策をお願いします。

- ・ 集合 朝霞市役所裏駐車場 午前7時45分集合、8時出発
- ・ 費用 昼食代(銚子市内予定)は各自負担
- ・ 申込 明山副会長へ(今回はあさか環境市民会議の会員限定の募集となります)

き水ではないことがわかります。この南沢湧水は多摩地区で最大の水量とされ、湧水の量は1日約1万トン。隣接する東京都水道局の給水所から汲み上げられた地下水と合わせて久留米市の水道水としても利用されているそうです。南沢湧水群は、2008年（平成20年）6月に「落合川と南沢湧水群」として平成の名水百選に選ばれています。新座市の妙音沢湧水も平成の名水百選で、朝霞地区にも湧水があり自然地形的には同じなのですが、参加者は武蔵野台地から湧き出るこの豊富な伏流水を目にして感激の様子です。

ここにある緑地公園で昼食。その後もいくつもの橋を

通り過ぎ、小金井街道も過ぎて、いよいよ落合川の源流へ。川幅はますます狭くなり、台地の端に到達したようで、右岸には段丘が続いています。アシなどの背の高い植物で覆われ水面が見えなくなりますが、水中や河川敷にはいくつもの湧水があり「湧水ポイント」の標識が立てられています。

八幡橋という橋の先の段丘と住宅に囲まれた数十メートルの水路が確認できる最上流地点ということです。ここはかつて生活排水などで汚染されていましたが、地元の人たちの活動で清流に戻ったとのこと。緑も清流も人の手で保全しないといけないのが都市の環境です。

新年度も環境保全の推進を確認

あさか環境市民会議の第16回通常総会 2019年5月12日



あさか環境市民会議の第16回目となる総会が元号の変わった令和元年（2019年）5月12日（日）、朝霞市リサイクルプラザで開催されました。2018年度（平成30年度）の事業活動報告のあと、新年度事業などを決定しました。

午前10時からの総会には会員など約17名が参加しました。開会に先立ちあいさつに立った藤井会長は「よりよい環境を次世代に残したいというのが活動の基本です。環境問題としては現在、地球温暖化、廃棄プラスチックそして深刻な生物多様性の危機など大きなことがたくさんありますが、自分たちのできることをやっていくようにしたいと思います」と述べました。続いて、この日來賓として出席の朝霞市市民生活環境部環境推進課細沼課長補佐は「今後も朝霞の環境を守り発展させるための活動をお願いいたします」とあいさつ。

議事は、規定により藤井会長が議長をつとめました。第1号議案「平成30年（2018年度）度事業報告」については明山副会長が説明に立ち、資料に記載された1年間の活動や行った事業内容の記録を詳細に報告しました。また、自然部会、生活環境部会、広報・評価部会のそれぞれの活動についての報告も行われました。第2号議案「平成30年度決算報告について」は、桑田会計担当役員が説明を行い、いずれも承認されました。

3号議案「平成31年度（2019年度）事業計画について」は筑井副会長が提案を行いました。基本方針は「朝霞市

の環境に対して市民、市民団体、事業者及び市が互いに協力、連携しながら、よりよい環境を次世代に残す活動を継続していきます」ということで、①運営会議を通して、会員との情報の交換を行い②部会に関連したイベントを年数回程度行う③各部会が中心となって年間の活動を推進④環境基本計画の勉強会を開催一となっています。自然部会は、愛称を「あさかり山クラブ」とし、斜面林保全活動として、下草刈、間伐、落ち葉掃きや岡、宮戸、根岸台斜面林の整備済み箇所への落葉樹の植樹活動、実生樹の育成環境促進や根岸台里山再生林での湧水を活かした水辺環境の整備などを行っていきます。

「生活環境部会」「広報部会」も朝霞のまちを再認識するための事業を企画し、朝霞市の環境を考えるための「環境まちあるき」の開催や道路・公園等における調査結果を踏まえて、検討提言を行うことにしています。続いて第4号議案「令和元年度（2019年度）収入支出予算案」については望月会計担当役員が説明を行いました。

両議案への質疑応答では「環境まち歩き」での訪問場所を市街地など幅広くしてほしいという要望や春の「桜祭り」の時に環境会議のPR活動をしたらどうかなどの建設的な意見がだされました。

講演会「朝霞から世界へ 気になる鳥たち」を開催

総会終了後、あさか環境市民会議の初代会長で埼玉県生態系保護協会会員の渡辺俊夫氏による講演会を開催しました（写真上）。

渡辺氏は「朝霞から世界へ 気になる鳥たち」と題して、自身の撮影した野鳥や野生動物を紹介しながら、朝霞での仕事のかたわら世界各地の鳥や野生生物を見たいという思いで、見学ツアーに参加し、南アメリカやアフリカなど環境を巡った体験を披露しました。その中で、ガンカモ類の推移にうかがえるような朝霞市内の自然の変化や地球規模での環境保護への取り組みの重要性を語りました。